

令和4年度



知立南小だより

第1号 令和4年4月15日(金) 知立市立知立南小学校



【ピカピカの1年生!】

令和4年度の知立南小学校は、全校児童710名でスタートしました。一年間、どうぞよろしく願いいたします。

子どもたちの登校の様子を見ると、地域の方に見守られながら、通学班長を中心に元気に登校しています。授業では、これから始まる学習にわくわくしている様子が感じられます。

今後も知立南小学校教職員一同、全力で教育活動に取り組みます。保護者の皆様や地域の皆様方にはご支援を賜りますよう、よろしく願いいたします。

福井信也校長よりごあいさつ

校長として7年目を迎えます。本年度も、どうぞよろしく願いいたします。

さて、令和2年度から、文部科学省が示す新学習指導要領が新しくなり3年目となります。教育内容が大きく変わっただけでなく、ICT化も進み、様々な環境が変化しました。本校では地域との密接な連携、協働をしながら、学校がさらに楽しい場となるよう「カリキュラム・マネジメント」つまり、学校の教育の内容を常に改革・改善していきます。子どもたちがより自主的に、より主体的にいろいろなことに取り組むようになるよう、地域行事ともかかわりながら、授業や学校行事も根本的に見直しています。すでに運動会や学芸会など大きな行事は、変えています。

そのカリキュラムのなかで具体的に、子どもたちが、どのような姿になることをめざすのか。

それを、**「未来をいきいきと切り拓く子ども」** としました。

これからの未来は、科学技術の発達により、今ないものができ、できないことができるようになるでしょう。考えられないようなことが職業となり、すでに南小の子どもたちの将来になりたいものの1位が「ユーチューバー」です。世界がより身近なものにもなり、そうなることで今までに経験したことがない新たな問題と向きあうことになるでしょう。それらの問題を解決し、未来を切り拓いていかなければなりません。今の子どもたちは、そのような力をつけていかなければならないのです。そして、どのようにしたらそのような力が付くのか、学校だけではなく、家庭や地域全体で考えていかなければならないのです。

そんな未来を、切り拓く子どもとは、具体的に

「自分で課題(問題)を見つけたり疑問を感じたりできる子」

「課題(問題)の解決に向けて、粘り強く考え行動できる子」

「自他を認め合い、つながりを大切に、共に学び合おうとする子」

としました。ここで大切なのは、はじめに「自分で」とあるように、子どもたちの主体性です。学力というと「知識」や「計算能力」、「テストが100点」とか思い浮かべる方がいまだ多いかもしれません。しかし、今やスマホに問いかければ、知らないことはいくらかでも教えてくれます。教科書以上の膨大な知識は、教師に教えられなくても簡単に得ることができます。それどころか、ある未来予測では、2041年には「個人の記憶をコンピュータに移して、検索して処理する技術が実用化する」という、どこかのアニメ映画にあったようなことが書かれてありました。世の中にある知識を記憶するという事は、意味をなさない時代が来るかもしれません。

つまり、自分の思いや願いを実現するために、何が問題で、どう解決するのか、ということが大事になってくるのであり、そうした行動は、誰かに教えられたり、与えられたりしてできるものではありません。しかも、その思いや願い、もっと強くなったものを夢、世の中のためにと使命として考えたものを志（こころざし）とするならば、それは自分ひとりで実現できるものでもありません。

そのような、自分の人生を、自分で考えて、あらゆる知識を動員して、仲間とともに協力しながら創っていく基礎的な力を、これからの学校教育で子どもたちにつけさせたいと考えています。そのために「授業」を変えていくことはもちろんのこと、運動会やいきいきフェスタ（学芸会）など大きな行事などのあり方から家庭教育（宿題）まで、さらには地域行事もふまえて学校教育を変えていきたいと考えています。つまり、学校だけでなく、保護者の皆様と地域の皆様の小学校区全体で知立南小学校の教育のあり方を考えていきたいのです。子どもたちの思いや願い、夢を、地域全体で支えていくことで、子どもたちはこれからの人生を切り拓く力をつけ、さらには地域を愛する大人へと成長していくはずです。

南小キャラクター「みな丸」

そのためにも、令和2年度から、地域の方を交えて子どもたちを支えていくアイデアを出し合う場を新たに創設しました。それが、

知立南小学校区 青少年健全育成協議会

通称「みなみ育成会」 愛称「みな丸会」です。

青少年健全育成協議会といえば、以前は「三世代輪投げ大会」を開催するためのみの組織でした。この組織を、構成員を変えて、三町の代表者、区長、組織を運営する地域コーディネーター、PTA会長、子ども会代表、スクールガード会長、南小と一ちゃんの会会長などのメンバーにしました。そしてこの会の目的は、「学校と家庭・地域がともに、子どもたちを育てていく」、「子どもの教育をどのようなまちづくりにつなげていくのか」という視点で協議を行い、さまざまな活動を、地域のボランティアを集め、促していくことです。これは文科省が推奨するコミュニティスクールの地域連携協働本部のようなものです。学校が必要としていることや、こんな学校にしていこうという地域の声を学校教育で実現するために有効な活動をアイデアとして出し合い、その活動に力を貸してくれる地域の方々（ボランティア）の協力を得て推進していくための組織なのです。学校や地域が楽しくなるような活動のアイデアを募集しています。

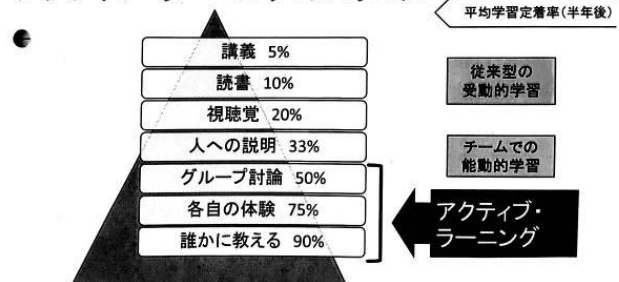


そして、もう一つ。

適応指導教室 「みな丸学級」

この教室は、今ある放課後子ども教室の部屋において、午前中から5時間目までの間で開設をします。日本語教育を必要とする子どもたちへの取り出し指導のほかに、教室へ入ることや登校ができない子どもの居場所として、子どもたちに個別対応をしていきます。さらには、学年に相応する学習の極端な遅延がみられる子への個別指導を保護者の同意のもと取り出しで行います。今まで高学年で行っていた算数の少人数指導は中学年で行います。高学年は、自主的・計画的に自分の苦手な学習を克服していくようにしたり、子ども同士が教えあう場を設けたりしながら基礎的な学力をつけていくようにします。ある研究機関では、学習の定着率の最も効率のよい方法は、「誰かに教えること」（右図参照）であるとしています。本校も、右図にあるアクティブラーニングを、さらに大切にしていきたいと考えています。

アクティブ・ラーニングのピラミッド



ラーニングピラミッド 米 National Training Laboratories